

—気象講演会雑感—

平成12年度気象講演会開催報告

講演会担当理事 山崎 孝治  
(北海道大学大学院地球環境科学研究科)

平成12年度の気象講演会は札幌近くで開催することを考え、テーマは「北海道の農業と気象」とし、酪農学園大学の御協力を得て、江別市で開催することとなった。

講演会の実施内容は以下のとおりである。

テーマ：「北海道の農業と気象」

日時：平成12年10月28日(土) 13時00分～16時30分

場所：酪農学園大学 中央館学生ホール (江別市文京台緑町)

講演題目：

- (1) 「北海道の気候の特徴と農業生産技術を考える」  
山田 一茂 (北海道農業試験場研究交流科・科長)
- (2) 「気象情報の農業への利活用」  
網蔵 真 (日本気象協会北海道支社・課長)
- (3) 「古代人の食生活復元から考える気候変化の影響」  
南川 雅男 (北海道大学大学院地球環境科学研究科・教授)
- (4) 「北海道の気象災害—石狩川洪水を中心に—」  
若原 勝二 (札幌管区気象台気候・調査課・課長)

以下に講演会に対する個人的な感想を述べる。

山田氏の講演では「水稻収量の年々変動が大きい不安定な期間とそれが少ない安定な期間があり、気候変動の10年スケール変動と関係している」ことに興味をもった。

網蔵氏の講演では「農業作物の生育予測式の実際やその情報が農家と双方向で伝達されるシステムなど」普段知らないことを聞いて面白かった。

南川氏の講演は「遺跡から出土する人骨に含まれるコラーゲンの炭素・窒素同位体組成から古代人が何を食べていたかがわかる」というもので興味深かった。総合討論でも南川氏に多くの質問があった。

若原氏の講演では「近年、洪水による浸水戸数や被害額は大きいままであるが、死者数は浸水戸数に比べれば減少している」ことが示された。今後は被害額も少なくなるよう努めなくてはならないと思った。

内容はこのように盛だくさんで貴重なものであり、会場も設備の整った立派なホールであったが、参加人数は28名と少なかった。会場が比較的交通不便な場所であったこと、開催日が土曜のため酪農学園大の学生があまりいなかったことなども考えられるが、主催者側の努力も足りなかったと反省している。せっかく貴重な講演をしていたいただいた講師の方々に申し訳なく思う。

終わりに、会場の斡旋をしてくださった酪農学園大学教授・堀内一男博士と講演会の運営をお手伝いいただいた酪農学園大の学生の皆様及び講師の方々に感謝致します。